

脳機能とリハビリテーション研究会

2015年研修会

講義抄録（11月22日講義分）



1. 脳画像読影のためのはじめの一步 11:00~13:00

1) MRI・CT 読影の基礎 11:00~11:45

講師 迫 力太郎（昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 理学療法士）

脳 CT・MRI 画像は実践で学ぶことが一番の近道です。そうは言っても、どのように見ていけばよいか悩んでしまうものです。脳画像読影の第一歩、入門編として、CT・MRI 読影時の基礎知識や何を注意してみていくか？等、基本的な内容を中心に講義していきます。また、実際の患者さんの脳画像をみながら CT と MRI の違いや特徴、急性期・慢性期での画像の経過等も説明していきます。

2) 脳画像から解剖学的ランドマークを同定する方法 11:45~13:00

講師 山本 哲（茨城県立医療大学 保健医療学部理学療法学科 助教）

「脳画像をみるのは難しい」「何を読み取ればいいのか分からない」

臨床で脳画像を見る際に、上記のことを耳にすることがあります。実際の MRI 画像は解剖図と異なり、一次運動野、角回などの構造名が書き入れられていません。そのため、画像上で脳内の構造物の同定を行うことは容易ではなく、知識と経験を要します。よって本講座では脳画像読影能力の向上を目的とし、代表的脳回の同定法について解説を行います。また画像読影の際に注意すべきいくつかの点についても言及する予定です。

2. 診療放射線技師からみた脳 MRI -基礎から応用まで- 14:00~15:30

講師 本寺 哲一（昭和大学藤が丘病院 診療放射線技師）

脳 MRI 検査は、診療放射線技師が携わる MRI 検査の中で最も多い検査の一つである。脳 MRI 検査では、MRI の長所の一つでもある組織コントラスト分解能に優れている点を活かし、脳血管疾患・中枢神経疾患・神経疾患・高次脳機能障害など多岐にわたる疾患を対象としている。その中で、診療放射線技師は、迅速かつ正確な検査の施行と読影補助評価が求められる。今回は、脳 MRI 検査における各シーケンスの種類と特徴を中心に、上記臨床画像を供覧しながら解説していきたいと考える。

3. 脳画像と神経学的・神経心理学的徴候との関連 15:45~17:15

講師 沼田 憲治（茨城県立医療大学 保健医療学部理学療法学科 教授）

リハビリテーションでは、脳損傷によって生じる様々な認知・運動の障害を把握することが求められます。近年、セラピストにとって脳画像の重要性が認識されつつあります。しかし、脳画像で病巣部位の解剖学的同定だけでは意味はありません。障害を把握するためには、病巣部位と神経学的・神経心理学検査結果とを対比することが必要となります。ここでは、脳画像を利用するために必要な、脳の機能的構造についてお話しをする予定です。